

原爆被害を償うとは ～被爆者運動の要求から

◆ 2005年6月20日(月)

◆ 午後3時10分～午後4時40分

◆ 場所／西宮上ヶ原キャンパス
大学図書館ホール

◆ 講師／^{なお} ^の ^{あき} ^こ 直野章子氏
(九州大学大学院比較社会文化研究院 助教授)

*本講演会には手話通訳がつかます。

■講師紹介

兵庫県西宮市出身。1991年アメリカン大学国際学部に留学し、1994年に卒業。その後スミソニアン博物館での原爆展論争を受け、被爆50年の夏、アメリカン大で原爆展を開催。1996年カリフォルニア大学大学院に進学し、2002年博士号(社会学)取得。その後半年間、ソウルの高麗大学に語学留学。2003年から2年間、日本学術振興会特別研究員として「被爆の記憶」に関する調査研究を続け、今年4月より九州大学大学院比較社会文化研究院助教授。著書に『ヒロシマ・アメリカ—原爆展をめぐる』(淡水社、第三回平和・協同ジャーナリスト基金賞奨励賞受賞)、『「原爆の絵」と出会う～込められた想いに耳を澄まして』(岩波ブックレット)。

■講演内容

被爆者の全国組織である日本原水爆被害者団体協議会(被団協)は来年、結成から50年を迎えるが、この間被団協は日本政府に対して「まどうてくれ」と要求し続けた。単に原爆被害を救済することを求めているわけではない。原爆を落としたのはアメリカだが、原爆被害をもたらしたのは戦争で、その責任は日本政府にある—こう考えて、原爆被害への償いとして国家補償を求めているのだ。

戦没者を「お国のために命を捧げた英霊」として読み替える一方、教育基本法や憲法9条の改悪を通して「命を捧げる国民」を創出しようとする勢力が力を増すなか、今一度被爆者たちの闘いの軌跡を振り返ってみたい。



大学におけるハラスメント対策の課題

— 二次被害を防止するには —

◆ 2005年6月30日(木)

- 午前11時10分～午後0時40分
場所／西宮上ヶ原キャンパス
大学図書館ホール
- 午後3時10分～午後4時40分
場所／神戸三田キャンパス
Ⅱ号館101号教室

◆ 講師／^{よこ} ^{やま} ^{みえ} ^こ 横山美栄子氏

(広島大学ハラスメント相談室 教授(兼室長))

*本講演会には手話通訳がつかます。

■ 講師紹介

1979年、お茶の水女子大学文教育学部卒業後、福岡で中学校教員を5年間勤め、再び大学院で学ぶ。お茶の水女子大学大学院博士課程を経て、1992年より九州女子短期大学、九州女子大学で社会学を担当。2004年9月より広島大学ハラスメント相談室専任教員として着任し、現在、同相談室室長。

専門領域は、社会問題論、ジェンダー研究。著書には『アジアの社会変動とジェンダー』（共著、1999年、明石書店）などがある。また、仲間とともにNPO法人福岡ジェンダー研究所を設立し、女性のエンパワーメントを目指した支援活動や調査研究も行っている。

■ 講演内容

ハラスメントとは「権力を利用した嫌がらせ」です。大学におけるハラスメント問題は、セクシュアル・ハラスメントのみにとどまらずアカデミック・ハラスメントへと広がりをもって認識されるようになりました。それに伴って、規則や相談体制も整備されてきています。しかしこうしたハラスメント防止体制は有効に機能しているのでしょうか。被害者が安心して相談でき、二次被害を受けることなく、被害救済と権利回復が十分になされることが保障されるしくみとなっているのでしょうか。

人権侵害としてのハラスメント問題を正しく理解すると共に、ハラスメントのないキャンパスにするために必要なことを一緒に考えたいと思います。

総合テーマ：

Culture of Human Rights

— 人権文化を育む

(2005～2009年度)

日本のIdentity Crisisと 日本人のアフリカ観

◆ 2005年12月5日(月)

● 午前11時10分～午後0時40分

場所／神戸三田キャンパス
Ⅲ号館325号教室

● 午後3時10分～午後4時40分

場所／西宮上ヶ原キャンパス
大学図書館ホール

◆ 講師／ゴードン・サイラス・ムアンギ氏

(四国学院大学社会学部応用社会学科教授)

*本講演会には手話通訳がつきます。

■ 講師紹介

Gordon Cyrus Mwangi ケニア共和国出身。京都大学大学院博士課程修了後、京大アフリカ地域研究センター研修員などを経て、90年四国学院大学助教授。98年には英国、エジンバラ大学国際社会科学研究所客員研究員、南アフリカ、ウェスタン・ケープ大学政治学科客員研究員などを歴任。2000年より同大学大学院社会学研究科社会学専攻教授に任用される。

主な学術論文のうち最近のものは、「グローバリゼーション—南は貧困をもたらすのか、繁栄をもたらすのか—」「アフリカ人民への二エレレの忠誠」などがある。

■ 講演内容

日本の中でアフリカのイメージは何に影響され、誰がどの様に作り、どう変化しているのか。日本ではアフリカといえば、未開、部族、貧困、エイズなどの極端で否定的なイメージが先行する。それはなぜなのか？ 民族紛争、内戦を例にアフリカを報道する際の問題点を探り、何が変化し、何が変わらないのか—アフリカに対する揺らぐ事のない日本人の差別意識—に焦点をあてて考えてみたい。日本人のアフリカ人に対する差別意識解消の可能性を含めて、在日ケニア人から見た、揺れる日本人のIdentityについても角度を変え考えてみたい。

総合テーマ：

Culture of Human Rights

— 人権文化を育む

(2005～2009年度)



関西学院大学主催
秋季人権問題講演会

やってみよう! 人権ワークショップ

～差別・偏見に気づく～

◆ 2005年12月6日(火)

◆ 午後1時30分～午後3時00分

◆ 場所／西宮上ヶ原キャンパス
大学図書館ホール

◆ 講師／^{しら} ^い ^{しゅん} ^{いち} 白井俊一氏
(社)部落解放・人権研究所 啓発企画室長

*本講演会には手話通訳がつきます。

■講師紹介

1969年4月 住吉隣保館(現、住吉人権文化センター)に勤務し、前半15年間は学校教育担当(子ども支援活動)を、後半20年間は生涯学習を担当した。

2004年4月より(社)部落解放・人権研究所 啓発企画室長に就任し現在に至る。

主な著作として、『勇気がでてくる人権学習①～③』(解放出版社、1998年11月～2002年6月)、『人権相談ワークショップ ～まわりと私のつながりを求めて』(解放出版社、2003年7月)などがある。

■講演内容

〔1〕人権は、21世紀の多文化・共生社会のキーワード

(1) 人権とは、人が人として自由にのびのびと生きることを保障する市民的権利

(2) 20世紀の生み出したもの

(3) 21世紀の人権文化：確実につながりあうこと

(4) 矛盾・対立(苦悩)の根源

〔2〕差別・偏見とは何か?：意識、行為、実態

〔3〕偏見は、どこから生まれるのか

〔4〕権力構造のなかでの差別

疑似体験『偏見、差別(暴力)とは何か?』

1. 学習の目的 2. ワークショップ

総合テーマ：

Culture of Human Rights

一人権文化を育む

(2005～2009年度)

